ノブラボ・コンサート・キャラバン 2022
公演開催中！

KOTO-NOBU-LOG.

能楽堂から世界へ

7月3日に、声楽家の北嶋信也さん、コンテンポラリーダンサーで振付家の小林啓子さんをお迎えしたノブラボ・コンサート・キャラバン 2022東京公演『世界をつなぐ ～フィンランド、オペラ歌手、ダンサーを迎えて～』を銕仙会能楽研修所にて開催しました！

素晴らしい魅力を持ったゲストのお二人と共に、古典芸能の舞台である能楽堂から、異なる分野、そしてインターナショナルにつながる“世界”を発信できたことは、とても充実感のある喜びでした。

フィンランド、オペラ歌手、ダンサーと

東京公演のキーワードは「橋掛かり」、それは能楽堂の鏡の間から舞台に向けて掛けられた橋で、「異世界と現世をつなぐ」とも言われます。今回の公演では、この橋を渡った箏奏者、オペラ歌手、ダンサーによるつながりの“世界”を発信する舞台でした。プログラムは、東京公演フォーカス・コンポーザーであるフィンランド出身の作曲家 ユハ T.コスキネン作品を中心に据えた「秋」と「春」をテーマにした休憩なしの二部構成。

オープニングは、古事記「国産み」のイザナギとイザナミを題材にユハ T.コスキネンによって作曲された《天浮橋》からスタート。弱音を中心に、二人の神名を唱える短い音楽と演奏した十三絃箏は、この公演の象徴でもありました。

続いて、能「龍田」の詞章「和光同塵は結縁の始め…」が着想の基になっている十七絃箏独奏曲《薄氷》では、コスキネン氏が描いた秋の世界をコンテンポラリーダンサーの小林啓子さんとの共演で描き、能「龍田」に登場する龍田姫の名の下に作曲された二十絃独奏曲《竜田の曲》（三木稔）と一連の結びつきを持って前半の秋のプログラムを終えました。

「さくらさくら」の旋律をモティーフにした二十絃独奏曲《さくらはじめてひらく》（名倉明子）から季節は春へ。テノール歌手の北嶋信也さんを迎えた《初恋》（越谷達之助）、《さくら横ちょう》（中田喜直）、《モルゲン》（R.シュトラウス）の3曲は、作品の持つ儚さ、切なさ、愛しさを春に重ね合わせプログラムしました。特に、終曲に選んだ《モルゲン》は「内向的なドイツリートと箏の微妙な振幅が寄り添い、歌い手の表現を引き立てていて感動した」という感想も寄せられ、箏に様々な分野のアーティストや専門家とのつながりを築き、その共演の魅力やお互いの分野の面白さを伝える目的でスタートさせた「ノブラボ」の主旨が体現できた瞬間であり、とても嬉しかったです。

いよいよ9月23日（祝・金）の栃木公演で、今年のノブラボ・コンサートは最終日を迎えます！大谷石の蔵を改築したスタジオでの邦楽コンサート！コンサートホールとは一味違った雰囲気の中で、地場石材の持つ魅力とその地域に思い馳せながら、その響きをお楽しみください！一人でも多くのご来場をお待ちしています！

『大谷石蔵の響き』
～とちぎ未来大使を迎えて～
2022年9月23日（金祝）15:00開演

@大谷石蔵スタジオ be off
東武宇都宮線「南宇都宮」駅より徒歩1分